肱川

発行
肱川町企画調整室
電話肱川局 120
印刷　エヒメコープ印刷部

広報メモ

○献血をしましょう

近年重い病気やケガも輸血によって手術ができ、大勢の命が助かっています。これは、皆さんの尊い〝献血〟によってまかなわれています。町では本年も次の日程で献血を受付けます。どうかこぞって献血に出かけてください。

三月七日（金）
前一〇：〇〇～一一：三〇　肱川町公民館
後一：〇〇～二：〇〇　正山公民館
後二：三〇～三：三〇　宇和川縫製工場前
三月十二日（水）
前一〇：〇〇～一一：〇〇　岩谷公民館
後一：〇〇～二：〇〇　予子林農協横
後二：三〇～三：三〇　大谷公民館

献血できない人は、体重（男）四十五Kg（女）四十Kgまで、年令十八才～六十五才以上の人、病気の人、妊娠中の人。

輸血代金は無料となっています。〝病気などで輸血をし、その代金を病院へ払った場合の血液センターがその代金を補助してくれることになっています。おたずねは、生活福祉課へ。

ふるさと通信

大阪府泉佐野市笠松　竹本佳子

肱川を離れて七カ月。仕事と勉強で忙しい日々を送っています。ふるさとの美しい山河が思い出されてなりません。季節はずれになりましたが、大阪の店先にならぶ栗の小さいこと。まるでどんぐりくらいの大きさ。田舎から送ってきた栗を先輩達にわけてあげると大きいのと珍しいのとでとてもよろこんでくれます。

もうずっと前になりますが、ラジオを聞いていると大洲のおはなはん、肱川沿いの風物詩を放送していました。本当に懐しく思います。また、一番楽しみなことと言えば中学時代の友達からのたよりです。肱川のことなど書いてくるといつも「帰りたい。帰りたい。」と書いて出し、一日もお母さんの顔見たいな……と思うのです。

帝国産業佐野第一工場勤務（共栄出身）

気を若く　そして意欲的な行動を

「高齢者に関する」調査から

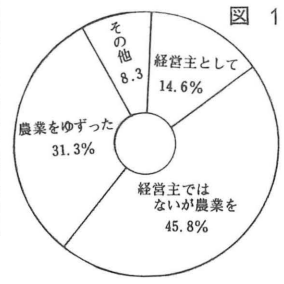
十六・四％が経営主
―農業経営―

日本人の平均寿命は年々伸びて「人生八十年」を迎えるのも、そう遠い将来ではなくなってきました。つまり、六十才の人は平均二十年以上の老いさき長い人生を持つことになります。この人生の老年期をどのようにすごすかは、現在、高齢者となった人達だけの問題ではなく、四十才以上（全人口の約半数）の人たちの重要な課題といえます。

そこで、高齢者と呼ばれるみなんのくらしや考え方について昨年七月大洲農業改良普及所が大谷地区で実施した六十才以上（対象男二十八人、女二十人）の調査をもとに、大洲市、喜多郡の結果と見比べながら、あなたの何年か先の人生、また現在その立場におかれている人生について考えてみたいと思います。

図1にみるように十四・六％の人が現在も経営主として働いており、これは男二十八人に対して四分の一にあたります。若い人が農業から離れて行き経営権がそのまま高齢者に残されているという実態ではないでしょうか。また現在農業をしている人と同数の人が今後も農業を続けていきたいと答えており、後でのべる自由時間と関連して、気がねなく、自由に働ける場を農業に求めているのではないかと思われます。

図1



診断は全員が受けたい
―健康生活―

高齢者においては、自分の健康については、かなり高い関心を示されるものですが、やはり健康診断は望むほとんど全員が受けたい希向いて受けることはなかなかむずかしいようです。しかし、自分検診車がくればほとんどの人が受けられるようにしたいという数がくればなり高く出てまた健康を保つためにそれぞれ努力しているようです。

しかし、どの内容をみても、それはかなり消極的に自分一人の対策であるようです。家族やグループにおける対策を、もっと真剣にとりくんでいきたいものです。

図2

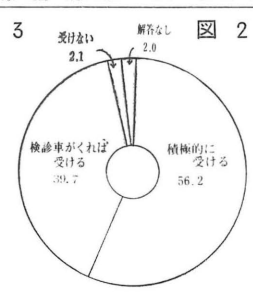
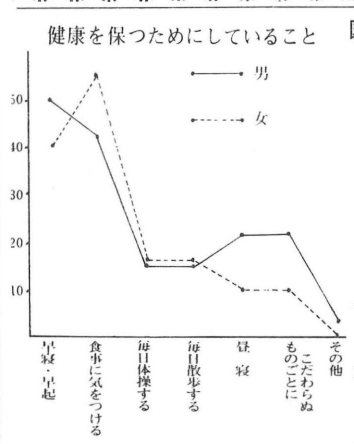


図3



楽しみは田畑で働くこと
―自由時間の活用―

自由時間の活用の仕方はさまざまでしたが、図4にみるように、作物を作ることが一番多いようです。さらに男女別にみると男性は比較的外面的な分野に目を向け、女性は孫たちとすごすなど、内面的なものが多いようです。また趣味については、趣味をもっている五十％の、そのほとんどは花や木を育てることです。趣味をもっている人がすくないと言われる日本においても、特に農漁村においては、すくないようです。これは生活におわれて、農業生産にすべての時間をもっていた、つまり余暇を楽しむゆとりのなかった長い歴史が作りあげた実態ではないでしょうか。さらに、その他の原因として、すくない小づかいの中で、生活費へまわす例も多いらしく、金のかからない、身近な所での趣味に限定せざるをえなかったのではないでしょうか。

図4

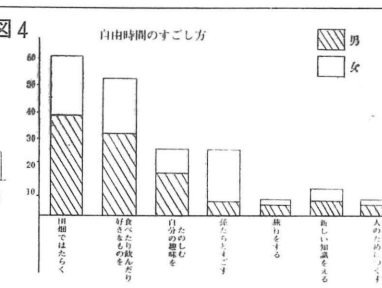


図5

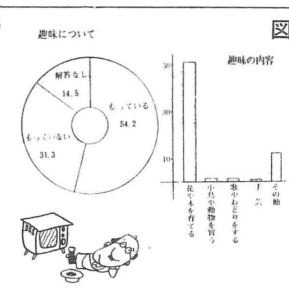
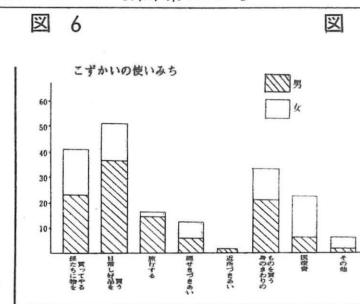
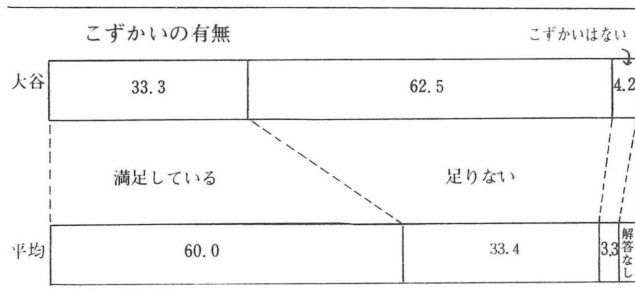


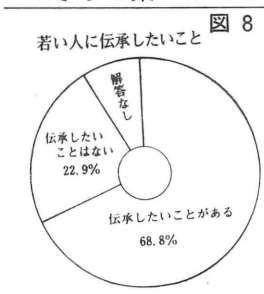
図6





グループで整理する機会を
―文化の伝承―

図8



あなたは若い人に伝えておきたいことがありますか。伝えておきたいことがある六十九％。大洲喜多地方の平均が五十七％ですので、文化伝承についてかなり意欲的な地域であると思われます。グループ、団体などで、伝承したい文化を整理する機会を作ることも必要な今後の活動のように思われました。

地域社会とのかかわりあいは

老人会は地域社会活動の窓口として活発ですが、その老人会に参加する数をみてみると、もう一歩という気もします。参加できにくい理由として、行くひまがない四分の一、これは前にのべたように、高令者といえども、まだまだお元気で農業経営上、かなり責任のある立場の人が多いからでしょう。しかし、老人くさくなりたくないといわれる四分の一の人々については、グループなどの活動方法で解決つかないものでしょうか。一口に高令者といっても、非常に巾が広いゆえにむずかしいとは思われます。

次に講習会への参加希望は五十％の固定数にくらべ二十三％のものによっては参加すると答えられた人に対して会のもち方を考えさせられました。

図9

男性は社会へ女性は家庭へ
―高齢者の幸せ―

現在五十五％の人が家族と同居していますが、やむをえず家族と別居していても、せめて同じ屋敷内に住みたいと答えています。

また、つれあいがなくなっても、病気になっても、相談相手がいなくても、住みなれた土地を離れると答えた人は一人もいませんでした。

幸福への感じ方は、男女によって多少差がありますが、男性は社会へ、女性は家庭へ目を向け、そこに幸せや不幸を感じることが多いようです。

今後のくらしについてはやはり、ほとんどの人が子どもを頼りにして老後へ希望をつないでいるようです。若い間は汗水流して働き、老後は、お金や時間にわずらわされず、一人の人間としてのしめくくりをすべく、活動を続けていく――。いつまでも気を若くもって意欲的に行動のできる高令者であってほしいものだと思いました。

（この資料の提供について大洲農業改良普及所の積極的な援助をいただきました。）

図10

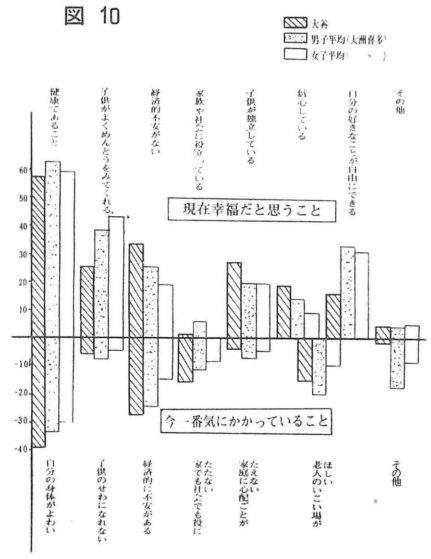
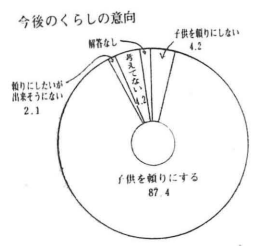


図11



人口と世帯

	昭和40年1月末日	昭和45年1月末日	昭和50年1月末日
人口	2,932人	2,433人	2,098人
男	3,012人	2,445人	2,153人
女	5,944人	4,878人	4,251人
計	1,281世帯	1,191世帯	1,109世帯
世帯数			

転入した人　11人

転出した人　9人

およろこび　4人
大屋敷　新　誠樹ちゃん
大　和　東　亜紀ちゃん
〃　東　真紀ちゃん
小　藪　徳本　直子ちゃん

おくやみ　3人
下敷水　安達　藤光さん（66才）
瓜生谷　山下ハナヨさん（80才）
大　和　出水ヨシエさん（80才）

わが家の〝家庭の日〟(5)

大谷小六年　二宮尚美

私のうちは、父、母、おじいさん、おばあさん、そして弟二人と私の七人家族です。

十二月五日の家庭の日には、母がたんせいこめて作った、手づくりの料理を食べました。その日の夕食はふつうより、とってもおいしく思えました。

そのほかたん生会もしています。

祖父は三月、母九月、私十月、父弟二人は十一月、祖母は十二月生まれです。たん生会といっても、ゲームもクイズもせず、ただお祝いの夕食をするだけです。でも、その日が私たちにとって、まちどおしくてたまりません。

今月は家庭の日についてみんなと考えてみました。その結果、今月の家庭の日からは好き焼か水たきをしようと決まりました。

だから今月からの、家庭の日がまちどおしくてなりません。でも家庭の日というのは楽しいことばかりする日だとは、考えていません。

家庭が明るく、そして、もっともっとよくなって行くように、みんなで考え、反省をすることも、大切なことですし、私たちでできる仕事の分たんを決めて、毎日実行するなども、家庭の日で話し合う、大切なことだと思います。

これからは、いろんなことを話し合って、もっともっと楽しい、明るい家庭になるように努力をして行きたいと思います。

国民年金で老令年金の「現況届」を未提出の方へ

国民年金の老令または、通算老令年金を受けているかたは、二月十五日までに「現況届」を提出しないと六月期以降の年金の支払いが受けられないことになっておりますが提出していない人はすぐに提出して下さい。

「現況届」の用紙は郵便はがきになっており、社会保険庁から一月の中頃受給者へ直接送られています。役場へ持参して町民課で住民票に記載されていることの証明を受けて、一〇円切手をはり送付し下ださい。

○母親学級
とき、三月六日九時三十分―十五時。
ところ、肱川町公民館
内容　午前中、妊産婦食調理実習。

○乳児健康相談
とき、三月二十四日午後一時―三時
ところ、肱川町公民館
対象、生後二カ月―お誕生までの赤ちゃん。
その他希望者

国保家族（軽自動車）の異動届出は早めに

国民健康保険税は、毎年四月一日現在の家族の人員（被保険者数）により課税されます。

家族が転入や転出したり社会保険に加入したり、会社などをやめたときは早めに届出て下さい。

また、軽自動車税は、毎年四月一日現在の所有者に課税されます。単車や軽乗用車を購入したり、廃車にしたときは、早めに手続きをして下さい。

所得申告は3月15日まで

町県民税の所得申告の木限は三月十五日です。

早めに部落長さんまで出して下さい。

所得税の確定申告と納税たは一〇万円以下の罰金

(二)　届出をしないで土地売買の契約をした者、または偽りの届出をした者。

土地取引の違反をした場合には――

売買による土地取引については先月号でお知らせしましたが、土地取引について違反をした場合には次のようになっております。

(一)　許可を受けず土地売買の契約をした場合。

◎　三年以下の懲役、または一〇〇万円以下の罰金

◎　六カ月以下の懲役、または三〇万円以下の罰金

(三)　届出をしてから六週間以内に契約をした者。

◎　三〇万円以下の罰金

以上のように法律で決められておりますので届出にご協力をお願いします。

の期限は三月十五日です。確定申告は早めにすませましょう。

申告の相談は、早めに税務署か役場まで。

部落自慢ばなし

部落の子宝、町宝

道野尾　土居貞丸

道野尾部落は清流肱川をちょうど目の前に見おろし、日あたりも良く、風通しも良く、環境的に非常に良いところです。

昭和三十五年から三十六年にかけて土地改良事業で畑を全部開田しました。それまでは陽焼けトウキビとサツマイモを食糧としておりましたが、開田をしたお蔭で一変し、米どころ道野尾となり現在では二五〇俵余りの政府売渡しをする程になりました。

自慢の一つは、そのようなことから部落の後継者がほとんど残り、昭和三十六年頃から次々と嫁さんをもらうようになり若嫁さんがどっとふえました。

嫁さんがふえれば当然子供がふえる。あそこにも子供ができた。ここにもできたで一年に七人もできた年がありました。

自慢の二つは、その子宝です。現在部落戸数は十九戸ですが、子供は高校生以下四十四人おります。正山小学校生徒数の三分の一程度当部落におりません。これは他部落にない自慢の一つでしょう。もちろん子供がおれば活気があります。（子宝ですもの）

夏休みの間、朝のラジオ体操に私たちも時々参加し、子供達の前に立ってやって見ますと、あまりにも多勢の子供達でこちらが上がるような気が致します。

婦人会の集いは道草会で大洲普及所の指導により現在料理講習や編物講習を行ない、いろんな話合いももたれ、話しが良くはずむようです。さて何の話しでしょう……

また、事業では、四十四年に消火栓施設、四十五年にママとぼくの広場（遊園地）四十六年に放送施設四十八年に部落集会所新築。さらに、五十年度に道野尾爪畦線道路の開設なども計画致しております。

私たちは、部落の子宝を町の宝として今の子供が肱川町へ残り、後継ぎをするよう住み良い環境、部落、町、をつくるためこれからも部落民が団結して頑張り、良い子供になるよう育てていきます。

一口医学　診察を受けるときの心構え

内科

病状を要領よく話すためおもな症状をメモして行くとよいでしょう。

聞きたいことは、はつきり聞いてよいのですが、忙しい医師を一人占めしてくどくど聞くのは非常識です。

泌尿器科

必ずといってよいほど検尿しますので、その前にトイレへ行かないほうがよい。がまんできないときは看護婦さんに申し出て下さい。

一日の排尿の回数、尿の出方がよいか悪いかなどメモして行くとよいでしょう。

皮膚科

厚化粧をさけること。しみ、つめの色、皮膚の状態などを観察するのに人工着色はじゃまになります。

いままで用いていた薬があれば、持参すると参考になることがあります。

外科

骨折やねんざで受診するときは、ゆるみのある服装で治療を受けたい。包帯を巻いたり、副木をあてたりで、はいてきたスラックスが帰りにはけなくなることもあります。

カガトの低い、安定したくつをはいて行くこと。

八三・二〇%の投票率

肱川町の県知事選挙結果

開票風景

部落別投票者数および投票率

投票区	部落名	有権者数 人	投票者数 人	投票率 %
第1	肱川	39	34	87.18
	大和	119	99	83.19
	中野	132	101	76.52
	小藪	179	148	82.68
	下鹿野川	170	154	90.59
	上鹿野川	172	156	90.70
	京造	22	15	68.18
	奥の山	4	3	75.00
	見越	22	14	63.64
	月の野尾	42	31	73.81
	計	901	755	83.80
第2	敷水	42	31	73.81
	下敷水	78	56	71.79
	上敷水	34	21	61.76
	下嵯峨谷	63	47	74.60
	上嵯峨谷	43	37	86.05
	菟野尾	66	58	87.88
	橡の瀬木	12	11	91.67
	計	338	261	77.22
第3	畑井	21	15	71.43
	小野尾	19	13	68.42
	萩野	72	60	83.33
	汗森	47	37	78.72
	道尾	84	69	82.14
	上山槌	58	55	94.83
	山生	97	86	88.66
	協栄	102	72	70.59
	共計	500	407	81.40
第4	白石	74	55	74.32
	影地	49	46	93.88
	広常	119	103	86.55
	久保	116	93	80.17
	大敷	87	71	81.61
	大屋	54	48	88.89
	森	48	38	79.17
	計	547	454	83.00
第5	小倉	17	15	88.24
	中津	75	63	84.00
	計	92	78	84.78
第6	柳	52	41	78.85
	郷	64	51	79.69
	之畦	38	37	97.37
	市生谷	58	51	87.93
	爪町	73	68	93.15
	藤野原	65	57	87.69
	計	350	305	87.14
第7	嘉城	71	62	87.32
	中居谷	178	155	87.08
	計	249	217	87.15
合計		2,977	2,477	83.20

積雪も、選挙当日にはほとけ、心配されていた降雪もなく、曇り空の中で行われた愛媛県知事選挙は八三・二〇%の投票率に終りました。

四年間の県政を定める大切な首長の選挙でしたが、最後までもり上がることなく前回（八三・七%）を〇・五二%下る投票率に終りました。

しかし、いつの選挙でも低い女性の投票率が、今回はわずかではありますが男性を上回ったことは、高く評価したいものです。

インタビュー　『日本人のくらしはぜいたく』

―中国から帰国した中川さん―

「日本の自然は美しく，そして人の心がとてもやさしい」（秀鳳さん）
「中国では味付けに砂糖を使わないで油で味付けしたものが多い」（清さん）と日本の印象を語ってくれました。（内子町で）

上森山出身の中川清さん（五二才）が、三十五年ぶりに中国から、末娘の秀鳳（シュウフォン）さん（一二才）を連れて里帰りされました。

中川清さんは、昭和十四年十二月、中川一さんの弟宗一さんと結婚して間もなく、昭和十五年一月満州開拓団の一員として中国に渡り、戦後昭和二十年撫順市へ避難しましたが、昭和二十一年、夫の宗一さんと三人の子供を病気で亡くしてしまいました。

その後、現地の中国人と結婚し、一男五女を育てあげ、今では「息子と三人の娘が働くようになり、幸に暮している」そうです。

しかし、死別した宗一さんの遺品を郷里に埋めてやりたい一念から、帰国申請を続け、一時帰国が実現したものです。

昨年十二月十二日に帰国した清さんと秀鳳さんは、肱川町の住民として登録を済ませたあと、宗一さんの実家（中川一さん宅）と、清さんが生れ育った内子町の実家や姉妹の家を往復しながら、旧友とも再会してなつかしい毎日を過ごされています。

清さんは、「車が多いのに驚きました。そしてくらしが、とくに食事がぜいたくすぎますね。昔の苦しい生活からは想像もできませんでした。」

「洗濯機も初めてみました。あちら（中国）では、テレビは会社（政府直営）にあるくらいで、家庭ではとても買えません。」

大陸で育った秀鳳さんは、「日本の川には石があり、水も周囲も青くて美しい。日本の人は、みんなやさしくて親切です。くにへはまだ帰りたくない。大きくなったら、また日本へ来たい。」とお母さんの通訳で話してくれました。

「大きくなったら何（職業）になりたいですか」とたずねると、秀鳳さんは「政府が決めたところへ行きます」と答え、職業の選択が認められていない中国の人に対して愚問でありました。

秀鳳さんは、近所の子供たちと、「文字」の読み方を教え合ったりして仲良く遊んでいます。「オヤスミナサイ、」「イラナイ」、「アリガトウ」といった言葉が判るようになったそうです。

帰国して一箇月、三年も五年も物価の変動もない中国で暮している清さんがみた日本人の「くらし」は表面にすぎません。私たちの「くらしをみなおす」ため他国人のくらしを知ることも必要ではないでしょうか。（佐久保、中野委員）

こんにちは赤ちゃん

下嵯峨谷　寺岡美恵ちゃん（生後10ケ月）

下瑳峨谷寺岡勝信さんの長女（第二子）

ゆるくパーマでもかけているのではないかと思われるようにふんわりとした真黒い髪の毛、すみきったまるいお目め、三才になるお兄ちゃんとテレビのマンガを見つめています。

美恵ちゃんの出生の時は（赤ちゃんよそにあげよ）といっていましたが今ではとても可愛いい妹です。

お兄ちゃんぶって何かしきりにお話をしています。また美恵ちゃんは、わかってかわんないでかから首をふりおてをたたいて、キャッキャッといって喜んでいます。

この二人の光景を見るとき自然にほおのほころびをおぼえます。

美恵ちゃんも五か月頃までは母さんのオッパイを充分に吸うことができましたが、その後次第に分泌が悪く少しミルクを補給しています。十二月にかぜをひき暫く心配したけれど今では元気で一本の歯でやわらかい離乳食はよろこんで食べるようになりました。

最近は足も丈夫になりテレビも座って見るようになりホームゴタツの台につかまり、立ってみるほうがよいようです。

お父さんから帰ちる子煩悩で仕事から飛びついてくる美恵ちゃんをだっこしてご満悦でしょう。

お母さんはオッパイを通じて、母と子の結びつきが始まります。また抱きしめる、おんぶする。オフロにいれるといった、肌のふれあいは、赤ちゃんの心の栄養分となります。きっと情緒ゆたかな仲のよい兄妹に成長するでしょう。